

五期俳句会 第百七十三回 一月五日

今回は久貝さんがお休み、投句もなく新年早々四名で始める。

ぼんやりと日暮れの灯り冬の寺

塩田亘子

ビルの影川面に映す冬の月

今井由紀子

駐車場ち小さき稻荷に注連飾り

松浦武子

吾乍ら大きなお尻師走来る

浅香さとみ

大銀杏花散る如く舞ひ落ちる

松浦武子

ひととせや良きも悪しきも冬木立

塩田亘子

石路の花咲いて暮色を明かるうす

今井由紀子

ゆず湯たて香りまといて眠りけり

松浦武子

元旦や行列なして神詣で

塩田亘子

鈴振りて長寿を祈る初詣で

今井由紀子

草の霜縁ふちくつきりときらめきて

今井由紀子

除夜の鐘余韻のこして年移る

塩田亘子

学舎後検察庁舎冬深し

今井由紀子

但馬路の車窓の山々装ひて

松浦武子

新年から寂しい句会となった、人それぞれ都合があるけど、私に休みはない。出来るだけ繰り合わせて出席してほしいものである。

